

カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション 第5回 全体シンポジウム  
総合地球環境学研究所グリーンナレッジセンター開設記念シンポジウム  
2025年9月20日（土） 10:00-12:00国立京都国際会館 RoomD

# 未来を変える選択 ～グリーン人材を社会で共創する～

北海道大学

理事・副学長（最高サステナビリティ責任者）

横田 篤



北海道大学  
HOKKAIDO UNIVERSITY



## 国立大学法人 北海道大学 理事・副学長（最高サステナビリティ責任者）

1957年 東京都生まれ。物心がついた時には札幌におり、道産子を自認。小学生までは森を研究する国立研究機関の官舎で過ごし、水辺や森の探検などに明け暮れる。樹木の病原菌の研究者だった父親の影響を受け、将来は微生物の研究者になりたいと思い、その後は心を入れ替えて猛勉強、北大に進学

1979年 北海道大学農学部農芸化学科卒業（応用菌学講座）

1984年 同大学大学院農学研究科農芸化学専攻博士後期課程修了(農学博士)

1984年 味の素(株)中央研究所研究員（アミノ酸生産菌の開発研究に従事）

1989年 北海道大学農学部助手（応用菌学講座）その後30年以上、微生物発酵によるものづくりと腸内細菌の分野で教育・研究に没頭。その間、オランダ王国フローニンゲン大学留学も経験

2000～2022年 北海道大学大学院農学研究科（研究院）教授

2015～19年 同大学農学研究院長・農学院長・農学部長（札幌農学校から始まる本学発展の歴史から、**農学をルーツとした「持続可能性の追求」が本学の基盤である**ことを学ぶ）

2020年7月 法人化後、本学から急速に「北大らしさ」が失われていることを憂慮し、総長選挙に立候補

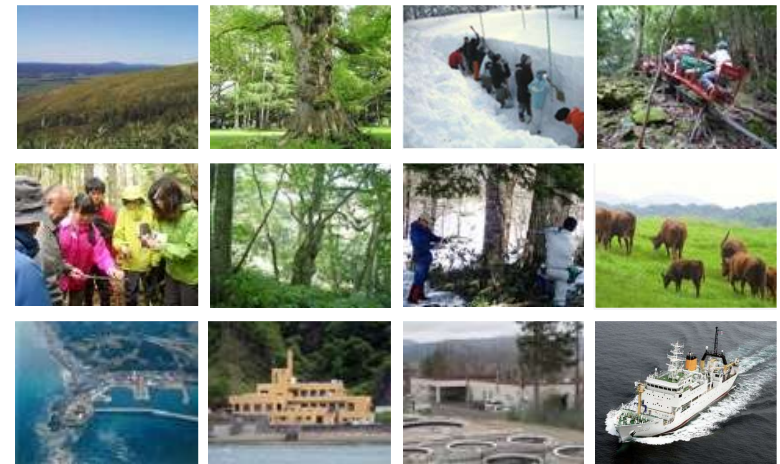
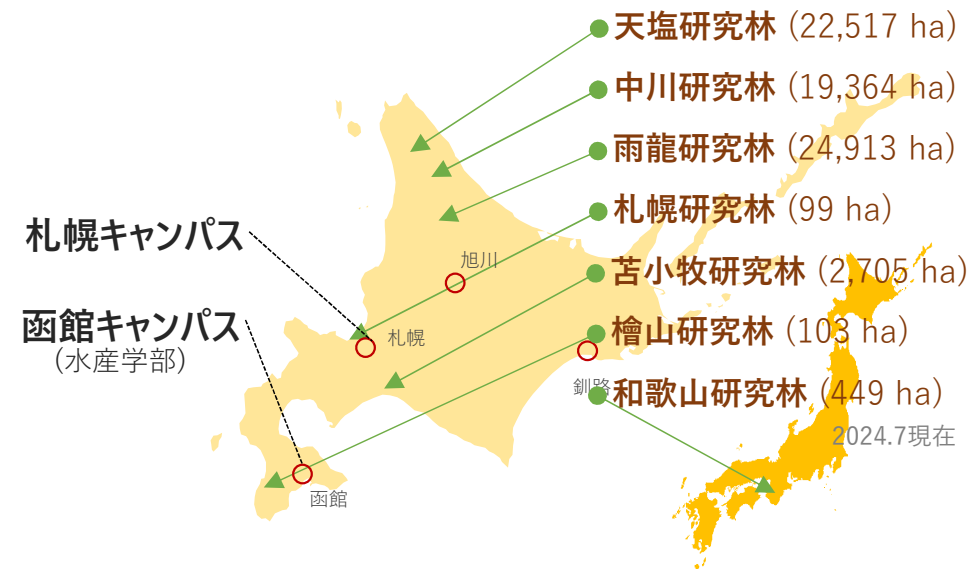
2020年10月 同大学理事・副学長（**本学の歴史に学び、「持続可能性の追求」や「SDGs達成への貢献」を「北大らしさ」の本質として全学に浸透させる活動を開始**）

2024年 同大学理事・副学長(**最高サステナビリティ責任者**)



# 独自性・優位性を持ってSDGsの達成に貢献する素地を持つ大学

- 1876年～札幌農学校：寒冷地における農業技術の開発と人材育成
- 広大な農場や世界最大の研究林（7万ha、国土の0.2%）、牧場、練習船、臨海実験所
- 様々なフィールド（森林圏、水圏、耕地圏）を活用したフィールドサイエンス（食糧生産、生物多様性、環境保全、気候変動等）に強み
- 地球規模のリビングラボとして、基礎～応用～社会連携
  - 気候変動や生物多様性データの観測
  - リジエネラティブ農業（環境再生型農業）実験場
  - グリーン＆ブルーカーボンの基礎研究
- ➡独自性・優位性を持ってSDGsの達成に貢献する素地を持つ大学



## THEインパクトランキング 2025

- 英国の高等教育専門誌「Times Higher Education（THE:ティー・エイチ・イー）」による、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の枠組みを使って大学の社会貢献度を評価するランキング
- 「総合ランキング」と「SDG別ランキング」が公表される
- 世界130カ国・地域から、2,500を超える大学が参加



SDGsの枠組みで評価

THEインパクトランキング  
6年連続国内1位



### 総合ランキング

**6年連続 国内 1位**

世界同率**44位**/ 2,318大学

国内大学で唯一世界100位内に  
ランクイン

世界のTOP2%に位置

# THEインパクトランキング2025 SDG別ランキング結果

- 以下5つのSDG別ランキングで、**国内単独1位**を獲得
- SDG2「飢餓をゼロに」では、**世界2位**を獲得

| 参加SDG                                                                                                          | 国内順位     | 国内<br>対象大学数 | 世界順位     | 世界<br>対象大学数 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-------------|----------|-------------|
|  SDG2<br>飢餓をゼロに               | <b>1</b> | 36          | <b>2</b> | 955         |
|  SDG14<br>海の豊かさを守ろう           | <b>1</b> | 34          | 17       | 711         |
|  SDG15<br>陸の豊かさを守ろう          | <b>1</b> | 39          | =21      | 854         |
|  SDG16<br>平和と公正をすべての人に      | <b>1</b> | 44          | 35       | 1,214       |
|  SDG17<br>パートナーシップで目標を達成しよう | <b>1</b> | 70          | 41       | 2,389       |

# サステナビリティ推進機構（2021.8.1設置、2024.6改組）

## ● サステナビリティ推進機構

理事・副学長をトップ（機構長）とする運営委員会を組織し、3部門が融合し、一体となって学内外のステークホルダーとのエンゲージメントを図り、北海道大学のサステナビリティ推進に関するコーディネート等を行います。

## ● 3つの部門

### ■ キャンパスマネジメント部門

サステナブルキャンパス構築を推進する

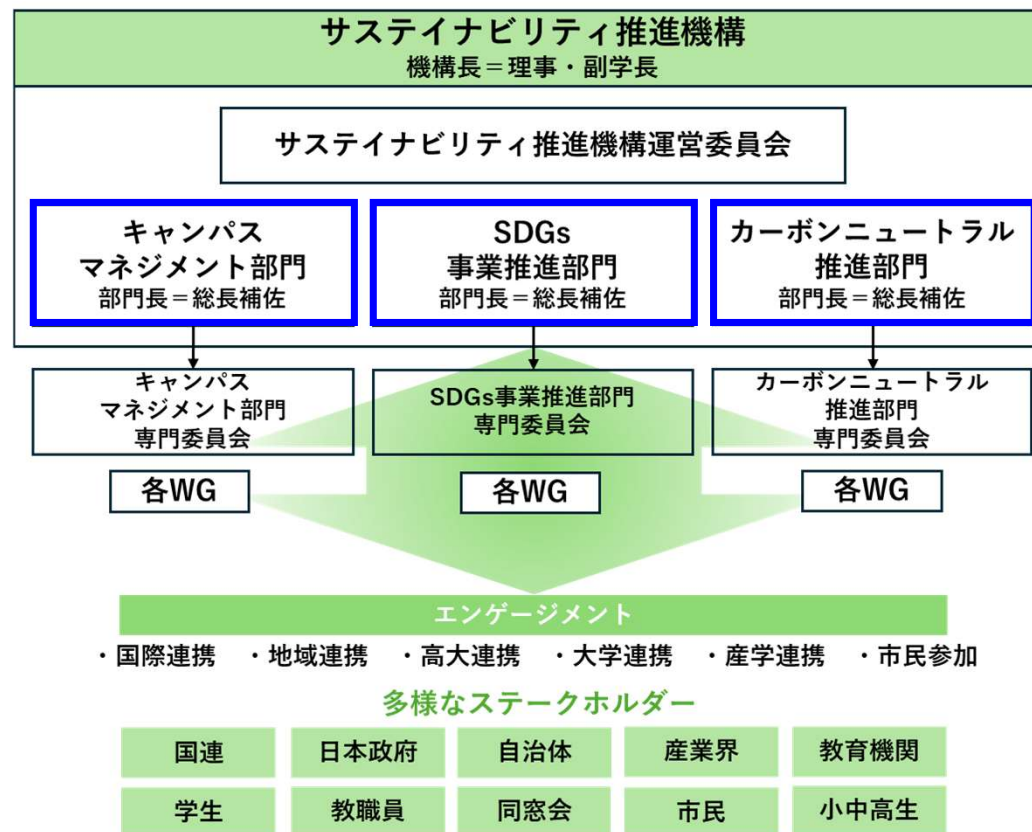
### ■ SDGs事業推進部門

SDGsに関連する教育、研究、社会連携、広報を推進する

### ■ カーボンニュートラル推進部門

気候変動と生物多様性の課題解決に取り組む

## 組織体制



各部局

学部・大学院  
研究所・センター等

- ・サステナビリティ推進員会議
- ・SDGs及び機構に関連する活動情報の収集・発信
- ・フォーラム、シンポジウムの開催
- ・SDGs関連教育
- ・キャンパスのゼロカーボン化等

サステナビリティ  
推進員・推進員補佐

### ■ 学内構成員（役員・教職員・学生）と 北大に連なる全てのステークホルダー

北大の建学以来の理念が「持続可能性の追求」や「SDGs達成への貢献」であることを理解し、各自の立場で行動変容を起こすことにより、GX（グリーントランスフォーメーション：サーキュラーエコノミー、ネーチャーポジティブ、カーボンニュートラル）の推進を一層加速する人材

### ■ 北大を外してさらに一般化

各自が所属するコミュニティ（地域や職場）の歴史や文化、特色を生かし、「持続可能性の追求」や「SDGs達成への貢献」の視点から各自の立場で行動変容を起こすことにより、GXの推進を一層加速する人材

## 対話② 産学公民で連携して、グリーン人材の育成を共創するためには？ HOKKAIDO UNIVERSITY

様々なステークホルダーと連携し、学生のみならず、市民、小中高生に対してグリーン人材を育成する座学とアウトドア型アクティブラーニング教育プログラムを開発し提供すること。重要なポイントはバーチャルでなく、本物の自然環境を可能な限り提供すること。フィールドサイエンスに強みを持つ北大は、この教育戦略を実施するに最も相応しい大学の一つ。

### 座学科目の例：

- **北大での学び**：世界の課題としてのSDGsを学習、入学者2,500名を対象、必須 1 単位
- **国連SDGs入門**：本学も加盟する国連大学SDG大学連携プラットフォームのカリキュラム分科会に参画する大学によって企画・制作された合同教育コンテンツ、本学は環境にコンテンツを提供、1年生向け、2単位

### アウトドア型アクティブラーニング科目等の例：

- **南紀熊野の自然と人々の暮らし**：和歌山研究林を舞台に生物多様性や限界集落としての地元の課題について学ぶ、1年生向け、2単位
- **さっぽろゼロカーボン特論**：札幌市、北ガスと連携し、脱炭素と持続可能なエネルギーについて現地学習とワークショップを行う総合知プログラム、大学院生対象、1単位
- **留萌管内高等学校・北海道大学 SDGs・ゼロカーボンプロジェクト**（高大接続の事例）：北海道教育庁留萌教育局と連携、SDGsやゼロカーボンを題材に、4校の高校生の探究活動実施と成果発信に大学と大学生が協力